

国営沖縄記念公園における ユニバーサルデザインへの対応

比嘉 浩¹・山入端浩之²

¹国営沖縄記念公園事務所 建設専門官（〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川 424 番地）

²国営沖縄記念公園事務所 工務課（〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川 424 番地）

国営沖縄記念公園（海洋博覧会地区、首里城地区）は年間 600 万人を超える来園者があり、公園を利用する人は実に様々である。当公園ではこのような多彩な来園者全ての方々が快適に公園を利用できるよう魅力ある満足度の高い公園を目指しており、施設整備や管理運営において多くの取り組みを実施している。

キーワード：国営公園、ユニバーサルデザイン

1. はじめに

国営沖縄記念公園は、沖縄国際海洋博覧会を記念し昭和 51 年に開園した「海洋博覧会地区」（写真－1，以下「海洋博公園」と）と、沖縄の本土復帰を記念し平成 4 年に開園した「首里城地区」（写真－2，以下「首里城公園」と）からなる国営公園である。



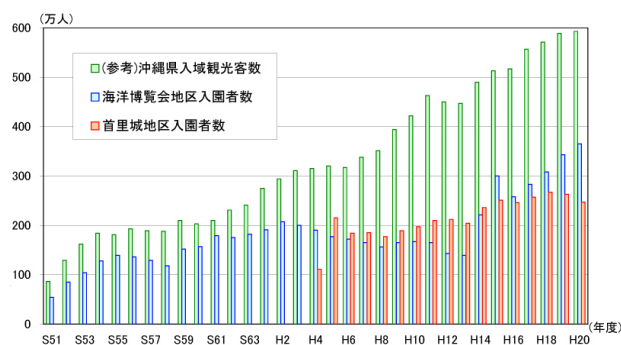
写真－1 海洋博公園

（上段：熱帯ドリームセンター・エメラルドビーチ
下段：沖縄美ら海水族館・海洋文化館）



写真－2 首里城公園（正殿）

平成 20 年度の来園者数は海洋博公園が 365 万人、首里城公園が 247 万人、計 612 万人となり過去最高を記録した。（図－1）なお、同年度の沖縄県入域観光客数は 593 万人となっている。



図－1 来園者の推移

海洋博公園と首里城公園は、沖縄の観光スポットとして県外はもちろん海外まで注目されており、当公園を目的として来県される観光客も非常に多い。また、県民にとっても余暇を過ごしたりイベントに参加したりする場所として広く親しまれている。

これから多くの来園者を迎えるにあたって、当公園では公園施設のユニバーサルデザインへの対応を行い、障害者や外国人なども含め「全ての人が利用しやすい公園」となるべく施設整備や管理運営を推進しており、ここではその対応策について紹介する。

2. 園内移動の問題と多彩な来園者への対応

現在当公園では「園内移動の問題」及び「多彩な来園者への対応」について重点的に取り組んでいる。

(1) 園内移動の問題

a) 海洋博公園

海洋博公園は開園面積が現在約 71.6ha あり、南北に長く東西に高低差の大きい地形となっている。園内には多数の公園施設があるため、来園者は広大な敷地を各施設まで徒歩もしくは電気遊覧車で移動することとなる（図－2、写真－3）。



図－2 海洋博公園 施設案内マップ



写真－3 電気遊覧車

例として利用の多い中央ゲートから主要施設である沖縄美ら海水族館の入口までは徒歩で約 6 分（約 450m）、北側にあるエメラルドビーチまでは徒歩で約 16 分（約 1,300m）かかる。また高低差が場所によっては約 27m（黒潮階段の場合）あるため、園内移動に負担を感じる方が多い。これらに加え、夏場は気温 30 度を越える中の移動になってしまう。公園施設を利用したくても、強い日差しと高い気温の中園内を移動することは多くの人々にとって負担とな

っている。

車椅子などの障害者にとってはさらに負担となってしまう。園内は坂道に加え階段も多いため、場所によっては大きく迂回する場所もある。また昭和 52 年より配備された電気遊覧車は、車両の構造上、車椅子の来園者は利用が難しい。

b) 首里城公園

首里城公園においては開園面積が現在約 2.7ha と海洋博公園ほど広大ではないものの、階段や坂が多くなっている。これは復元施設であるため施設の形状や意匠に制約がでてきてしまうためである（写真－4）。そのため、移動しやすい園路やエレベーター・エスカレーターなどを整備していくことが難しい。



写真－4 首里城正殿内部

これらのことから、両公園共に全ての人が快適に園内を移動できるようにするための対策が必要である。

(2) 多彩な来園者への対応

前述のとおり当公園は両地区合わせて年間 600 万人を超える来園者があり、様々な人々が公園を利用している。そのため、当公園は障害者や外国人の来園者も多くなっている（表－1）。

単位：人

	入園者数	障害者数※1	外国人数※2
海洋博公園	3,653,439	25,208	29,228 (0.8%)
首里城公園	2,470,340	5,706	24,703 (1.0%)
計	6,123,779	30,914	53,931

表－1 H20 年度の入園者数に占める障害者・外国人

※1 障害者手帳の提示で無料入館した入園者

※2 H20 年度公園利用実態調査アンケート(%)からの推定値

よって、園内表示やパンフレット、ホームページ

など一般向けに日本語で作成したものだけでなく、視覚障害者・聴覚障害者・子供・お年寄り・外国人までを想定したものが必要である。

3. 園内における対応

(1) あらゆる人が移動しやすい公園へ

a) 海洋博公園

園内移動の基本となる園路の勾配が急で、階段が多い場合、車椅子の来園者は利用できず、健常者も公園施設間の移動に多くの体力を使う。そこで、園内整備では園路の勾配ができるだけ車椅子が自走できる5.0%以下となるようにした。



写真-5 階段とスロープ（夕陽の広場）



写真-6 無料貸出しているベビーカー

また、高低差のある場所において、健常者のための階段と車椅子のためのスロープを同じ場所に設置することによって、あらゆる来園者が同じ場所で移動しやすい園路整備を行った（写真-5）。これらの園路は、園内で無料貸出を行っているベビーカーにとっても通行しやすい園路となっている（写真-6）。なお、電動車椅子27台、手動車椅子15台も無料

で貸出している。

日差しや暑さを和らげる対策として、園路にドライミスト（写真-7）と仮設の日よけテント（写真-8）を設置した。ドライミストは暑さ軽減の効果だけでなく、子供にとってはひとつのアトラクションとしても役立っている。



写真-7 ドライミスト



写真-8 日よけを目的とした仮設テント



写真-9 リフト付き中型遊覧車

車椅子の来園者が乗車できなかった遊覧車の問題

に対しては、新たにリフト付き中型遊覧車を導入することで対応した（写真－9）。

これにより車椅子の来園者が今まで以上にいろいろな公園施設へ移動しやすくなった。あわせて、公園内の安全巡視のために導入している公園パトロールカーにもリフト機能を備え、来園者から要請があった場合には園内の送迎などを行っている（写真－10）。



写真－10 リフトを搭載した公園パトロールカー

高低差が大きく移動に負担がかかっていた黒潮階段には、屋外エスカレーターを設置した（写真－11）。これによりオキちゃん劇場周辺から噴水広場までを合計5機のエスカレーターで容易に移動できるようになった。



写真－11 黒潮階段のエスカレーター

中央ゲートから噴水広場までの階段は、勾配が黒潮階段よりも緩やかであったため、動く歩道を設置した（写真－12）。



写真－12 動く歩道（噴水広場）

b) 首里城公園

有料区域の内部を車椅子でも見学できるようにするために、一般的にはエレベーターやスロープの設置を検討するのだが、復元施設である以上内部の構造や意匠を大きく変えることはできない。そこで、正殿には車椅子昇降機を設置することにした（写真－13）。



写真－13 車椅子昇降機

一般来館者も利用する階段に取り付けることで、エレベーターやスロープのように別の設置スペースを確保する必要がなく、復元施設の構造や意匠を崩さずに対応できた。

また屋外の園路についても、構造や意匠を崩さない程度にスロープを付けるなど（写真－14）、できる範囲での工夫を行った。これらの対策により、有料区域内はほぼ全ての場所を車椅子で移動できるようになった（写真－15）。



写真－１４ 首里城公園における屋外スロープ



写真－１５ 正殿内部での段差解消対策

(2) あらゆる人々を対象とした情報提供

a) 多国語パンフレット

総合パンフレットや各施設のパフレットを多国語対応させた。パンフレットによっては最大5ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語・台湾語）に対応している（写真－１６）。



写真－１６ 多国語対応パンフレット

各パンフレットの違いは言語のみであり、写真や図の配列、紙質まで全く同じにしたことで、各パンフ

レットとも同じレベルで情報提供できるようになった。

b) 点字ガイド



写真－１７ 海洋博公園点字ガイド（触地図の拡大）

目の不自由な方のために、点字ガイドを作成した。公園全体から各施設までを点字と触地図で説明している（写真－１７）。また音声点字ガイドのCDも同時に作成し、目の不自由な方に利用していただいている。

c) 園内サイン



写真－１８ ３ヶ国語表示の園内サイン

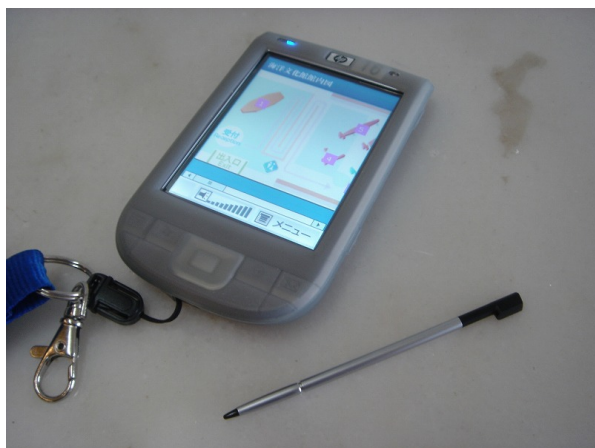


写真－１９ シンボルマークと３ヶ国語表示による案内板

園内サインは統一感をもたせ日本語・英語・台湾語表記で設置した（写真－18）。総合案内板をはじめ各道案内板、施設・動植物の説明板なども、多国語とシンボルマークを用いてできるだけ多くの人が公園内でいろいろな情報を得られるようにした（写真－19）。

d) PDA貸出

説明板等だけでは細かい情報提供ができないため、海洋文化館と熱帯ドリームセンターではPDA（携帯情報端末）の貸出を無料で行った（写真－20）。



写真－20 無料貸出しているPDA（海洋文化館）

これは文字・画像・音声を使って入館者に展示物等の説明するためのもので、タッチペンを使用することであらゆる人が直感的に操作することができる。なお、文字と音声は5ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語・台湾語）に対応している。

e) ホームページ

国営沖縄記念公園の公式サイトにおいて、海洋博公園は日本語・英語・中国語・韓国語・台湾語の5ヶ国語、首里城公園は日本語・英語の2ヶ国語に対応させた。（写真－21）



写真－21 国営沖縄記念公園公式サイト

また、色弱など目の不自由な方のためにホームページのバリアフリー化も行った。これにより、公式サイト内の文章をパソコンで読み上げること（音声出力）ができるようになった。

4. これからの課題

当公園は年々来園者数が増えている状況であり、来園者の増加に伴って公園を利用する人々もさらに多様化していくと考えられる。「取り組みがどれほどの効果があったのか」、「来園者はどれほど満足したのか」などについて、アンケート調査等によって検証し施設整備や管理運営に反映させていくこととしている。

また、公園が抱えているそのほかの問題（来園者の混雑緩和、公園施設利用の平準化、公園へのアクセス改善、施設の老朽化対策など）についても積極的に取り組み、これからも魅力ある満足度の高い公園づくりを推進し、今後も持続的な沖縄観光の発展や住民サービスに貢献していく必要がある。